

「なんでこんなことをするのか?」「もっと進めた方がいいのかな?」と思うような学習内容の、意味・意義をお伝えします!

P9・16～17

■ 数字を「見分けがつくように」書く練習をしましょう。

1から5、6から10、そして0と、3段階に分けて学習します。

- ① 一見して認識しやすい5まで
- ② 一見で見分けしにくく、5のかたまりを必要として考えるとよい10まで
- ③ そして「何もない」を数字で表した、特別な数字と言える「0」

今後、計算が算数の学習の中心になると、数字をていねいに書かずに、自分で読み間違えたり、写し間違えたりする例が、多数見られます。

数字も、書き順を正しく書く習慣をつけることで、急いで書いたとしても、書くべき数字が見分けられるようになります。覚えて書けている場合は、時間を早めにして書く練習などしても、見分けのつく数字にしていきましょう。

※高学年で、筆算などを書いていて、見間違いをする数字の例

「0」(上をつなげる)と「6」(最後止めるところを真ん中にかく。)

「2」と「3」(急ぐと、最後止めるところが雑になる。)

「4」と「9」(9の折り返し地点をしっかりとつなげないと、4の形に見えやすくなる。)

「3」と「5」と「8」(雑になると、上の部分が判別しにくくなる。)

「1」と「7」(7の上の部分が小さいと、字体で見慣れている「1」と混合する。)

低学年からの積み重ねが、高学年にもつながる部分です。家庭学習を行う際、スキルだけでなく、このような点から意識すると、将来的に有利です。